

南紀熊野の民話

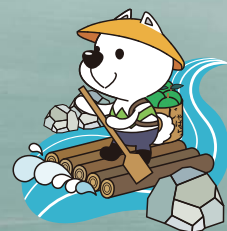
# 湊のぬしさん

南紀熊野の民話

湊のぬしさん

作 南紀熊野ジオパーク推進協議会

絵 大江みどり



南紀熊野ジオパーク  
NANKI KUMANO GEOPARK

南紀熊野の民話  
瀨のぬしさん

初版発行 2024年3月  
制作 南紀熊野ジオパーク推進協議会  
〒649-3502  
和歌山県東牟婁郡串本町潮岬2838-3

絵 大江 みどり

編集・印刷 中和印刷紙器株式会社

無断複製・転載を禁じます。

絵本の挿絵の一部には、  
フロッタージュという技法を  
用いた表現が使われています。  
物語にでてくる実際の場所に行き、  
そこにある岩や草木に紙を置いて擦り出すことで、  
本物の表情を紙にとどめています。  
現地から生まれた素材からでしか  
表現できない本物の質感  
を感じてもらえることができれば  
嬉しいです。

大江 みどり

どろ  
瀨のぬしさん

むかしくまの だろはちちよう  
昔、熊野の瀨八丁のふちに、

こうう えもん りっぽ あに す  
幸右衛門というそれは立派な兄さんが住んどったんやと。

あに まいにち かわ い つ  
この兄さんは、毎日、川に行き、釣りをしてくらしよったんやと。

はる ひ ひ つ  
ある春の日、その日もぼーと釣りをしよったら

こうう えもん うしろ かつ ひと  
「幸右衛門さん」と後からポンポンと肩をたたく人がおったんやと。

ふ む め さ ねえ た  
振り向くと、目の覚めるようなまことべっぴんな姉さんが立っって、

あに  
兄さんはびっくりしたんやと。



ねえ  
姉さんは

「いくとこがな<sup>こま</sup>て困<sup>たす</sup>ります。どうぞ助けてたもれ」

というので、一人暮らしの幸右衛門は

よろこんであんがえに連れて帰り、

いっしょ<sup>く</sup>に暮らしはじめたんやと。

ねえ 姉さんはあがの<sup>なん</sup>ことを何にも言わんと、

だま<sup>きげん</sup>ってにこにこと機嫌よういそいだんやと。

やがて、仲の良い二人の間に子供ができたんやと。



ねえ  
姉さんは、

「たのみがあるんです。

かわ ちい  
川のふちに小さい

こや た  
小屋を建ててくれんかの。

わたし こども う  
私はそこで子供を産みますから」と

ちい こや た  
小さな小屋を建ててもらたんやと。



そして、

わたし かえ  
「私が帰ってくるまで、

ぜったいに迎えに来ないで下さい。」と

で い  
出て行ったんやと。

ところが、いつまでたっても

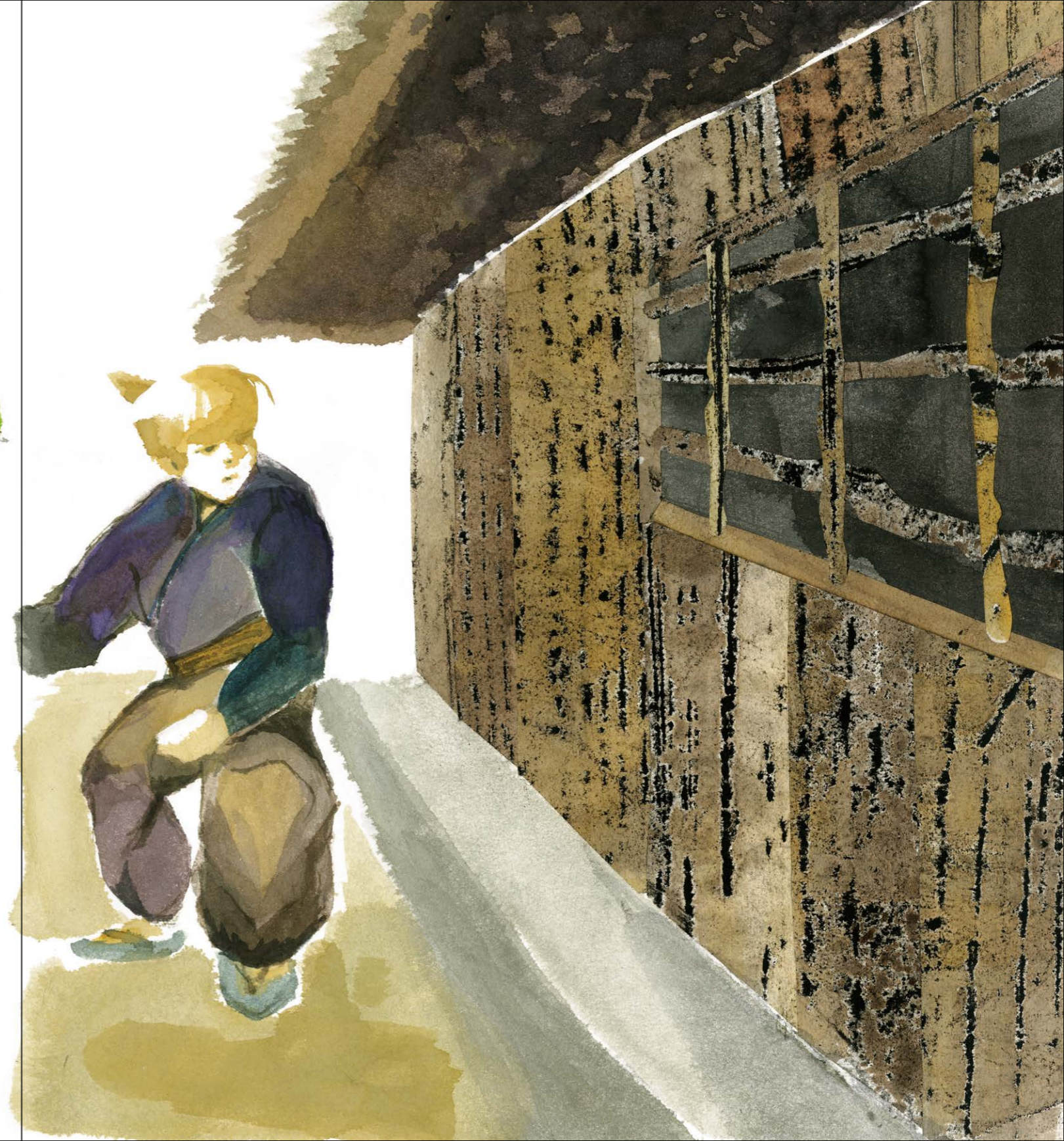
ねえ こ  
姉さんはかえって来なんだんやと。


しんばい こうう えもん  
そこで、心配になった幸右衛門は

ひとり しんぼう  
「一人で辛抱しよるんじやな一か」と、

やくそく やぶ  
とうとう約束を破り、

こや ようす み い  
小屋へ様子を見に行ってしまうたんやと。





おどろ ねえ すがた  
驚いたことに姉さんの姿はなく、  
だいるくなぐちなわがとぐろを巻いて  
あか ぼう だ  
赤ん坊を抱いとったんやと。  
もの おと き  
物音に気づいただいるくなぐちなわは  
おんな すがた  
いっぺんに女の姿になったんやと。



やくそく  
「あんなに約束したのに……。

どろ めし  
わたしは滞の主です。

りっ ぽ  
あまりに立派なあなたに  
こころ うば  
心を奪われてしまうんです。

でも、これでしまいです。

か こども  
わたしの代わりにどうか子供を  
そだ い のこ  
育ててたもれ」と言い残して、

みず なか すがた け  
水の中に姿を消して

しまうたんやと。



ゆる わる  
「許したもれー!おりゃ悪かった。」と  
な あ こう えもん つぎ ひ まいあさ  
よっぴと泣き明かした幸右衛門は、次の日から毎朝、  
ねえ のこ あか ぼう こぶね  
姉さんが残していった赤ん坊を小舟にのせ、  
どろはっちょう こ まわ  
瀬八丁を漕ぎ回ったんやと。  
よう す み ひと  
その様子を見て、人らは

かわ はっちょう なが  
川のぬしさん 八丁の長さ  
ふね なか  
かわいい ぬしさん舟の中

と、うとーたんやと。



じ ちと ちゅう がく せい  
**地元中学生からみた**

わたし  
**私にとっての**  
**瀬峡**  
 どりきょう



わたし しんぐら しりつくま の がわちゅうがっこう わ かやま  
 私たちの新宮市立熊野川中学校には、和歌山  
 県 奈良県・三重県の三つの県から登校する  
 生徒がいます。その三県境に位置している瀬  
 峡は、私たちを象徴するような場所です。今  
 回、絵本制作を通して南紀熊野ジオパークに  
 ついて学び、ふるさとについてとても深く知  
 ることができました。この絵本では私たちが  
 瀬峡でフロッタージュしたものが、素材の一  
 部として使われています。

びじゅつ じゆぎょう え  
**美術の授業で絵にしました!**



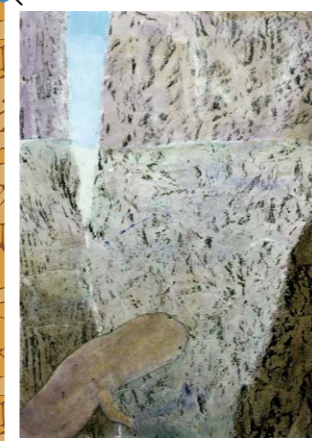
物語に出てくる蛇の迫力  
 仲 桜良



色彩に富んだ瀬峡  
 大槻 智久



瀬峡の伝統文化  
 坂口 愛依



瀬峡は深い  
 本間 喜朋



令和5年度 新宮市立熊野川中学校 2年生の作品

豊かな自然と美しい瀬の主さん  
 那々木 乃彩

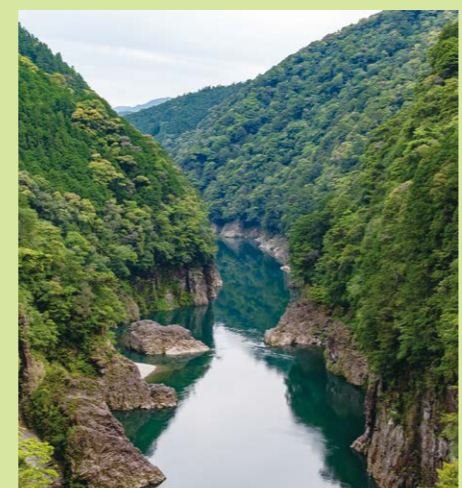
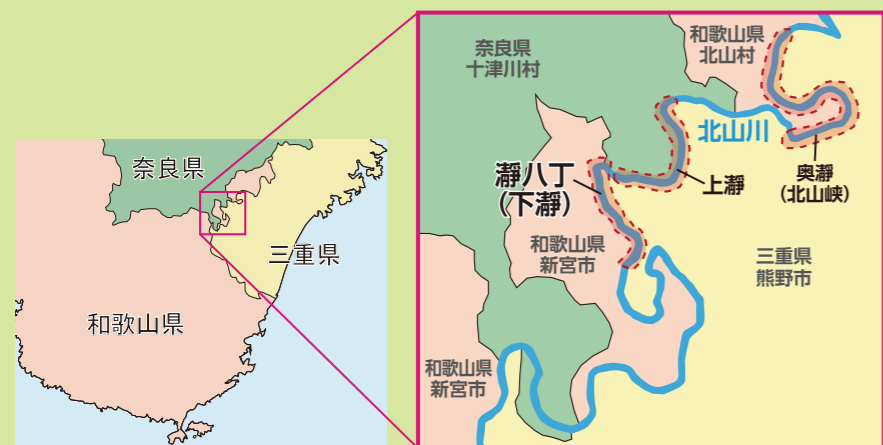


生きるキノコ  
 大槻 遼明

# お話に出てきた場所はどんなところ？

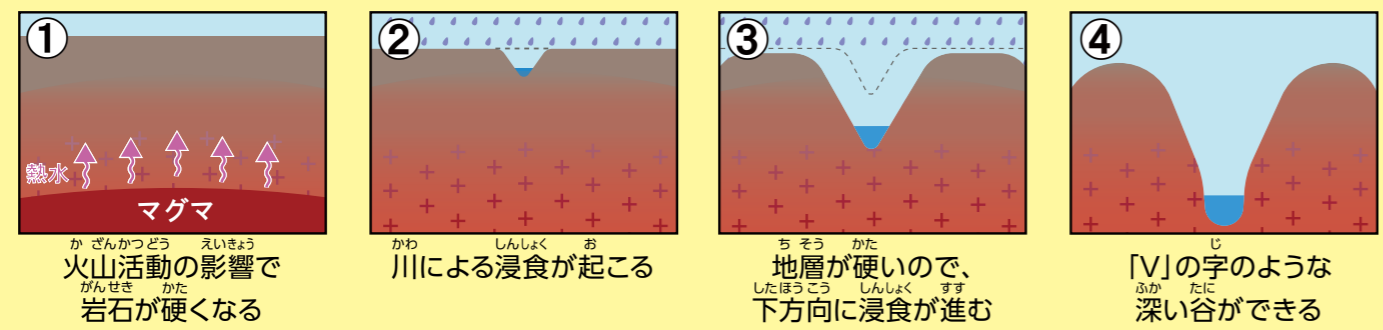
## どろ はっ ちょう 瀨八丁

どろ はっ ちょう き た がけ ふか たに ち けい とく ちょう ぎ けい こく かわ ふか い じょう ば しょ  
 瀨八丁は切り立った崖と深い谷の地形が特徴的な渓谷で、川の深さが20m以上の場所  
 もあります。「瀨」とは川の流がゆるやかで水の深い所という意味を持ち、「丁」は距離を  
 あらわ ばっ ちょう やく どろ はっ ちょう くに とく べつ めい しょう てん ねん き ねん ぶつ して い  
 表します(八丁=約900m)。瀨八丁は国の特別名勝※・天然記念物に指定されています。  
 いま とう ろ つく まえ かわ たい せつ こう とう ろ じょう りゅう い だ な が もく  
 また今のような道路が作られる前、川は大切な交通路でした。上流からは筏流しにより木  
 ざい は こ か りゅう かわ ふね せい かつ ぶつ し は こ どろ きょう おお  
 材が運ばれ、下流からは川舟により生活物資が運ばれていました。瀨峡でもかつては多く  
 い だ な が  
 の筏が流れていました。



## どろ はっ ちょう 瀨八丁のでき方

どろ はっ ちょう やく まん ねん まえ ふか うみ そこ た すな どろ お かた  
 瀨八丁は約7000万年前に深い海の底に溜まった砂や泥が押し固  
 められた岩石からできています。この岩石は、約1500万年前に紀伊半島で起こった大規模な火山活動の  
 ねつ えい きょう ねつ えい きょう ねつ えい きょう ねつ えい きょう  
 熱の影響で、とても硬くなっています。瀨峡には山に降ったたくさんの雨が川の水となって流れてきて岩石  
 けず かつ かん せき けず けず けず けい かん つく  
 を削りますが、硬い岩石は削られにくいいため独特な景観が作られています。



※特別名勝とは素晴らしい景観を持つ名勝の中でも特に価値の高い場所で、富士山や鹿苑寺(金閣寺)庭園など日本で36件が登録されています。

民話とは、昔の人が口から口へと語り継いできたものです。語り継がれてきたものなので、いろいろな話が存在しています。本書に収録した民話は、そのうちのひとつで、北山弁で書いています。

## 瀨のぬしさん

昔、熊野の瀨八丁のほとりに、幸右衛門というそれは美しい若者が住んでいました。この若者は、毎日、川に行き、釣りを生活をしていました。

ある春の日、その日も釣り糸をたれてほんやり水面を眺めていると、「幸右衛門さま」と後から軽く肩に手をかける者がいました。ふり向くと、目の覚めるような美しい女が立っていました。びっくりしていると、女は「いくあてがなくて困っています。どうぞお助けください」というので、一人ぐらしの幸右衛門はよろこんで家へ連れて帰り、一緒に暮らしはじめました。女は、自分のことを何もいわず、黙ってにこにことよく働きました。やがて仲のよい二人の間に、子供が生まれることになりました。女は、「お願いがあるのです。川のほとりに小さな小屋を建ててください。私はそこで子供を産みますから」と小さな小屋を建てさせました。そして、「私が帰ってくるまで、決して迎えに来ないで下さい」と出て行きました。

ところが、いつまでたっても女は帰ってきませんでした。そこで、心配になった幸右衛門は「一人で苦しんでいるのではないか」と、とうとう約束を破り、小屋へ様子を見に行ってしまうました。おどろいたことに女の姿はなく、大きなへびがとぐろを巻いて赤ん坊を抱いていました。物音に気づいた大きなへびは、頭を回すとたちまち女の姿になりました。「あれほどお約束しましたのに……。わたしは瀨の主です。あまりに美しいあなたに心を奪われてしまったのです。でもこれでおしまいです。わたしの代りにどうか子供を育てて下さい。」と言い残して、水の中に姿を消してしまいました。

「許しておくれ!私が悪かった。」と泣いて夜を明かした幸右衛門は、次の日から毎朝、女が残していった赤ん坊を小舟にのせ、瀨八丁を漕ぎ回りました。その様子を見て、人々は、「川のぬしさん 八丁の長さ かわいい ぬしさん舟の中」と、うたったそうです。